

和光会会報No. 48

－菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社OB会－

◆ ソースかつ丼の功罪

……… (2016-12) —山本拓弘さんから投稿頂きました—

佐渡への旅の途中に、往きと帰りの二回会津地方を訪ねました。福島県は面積の大きい県で、天気予報などは3つの区域に分けて報道されています。東の太平洋側は浜通り、中央エリアは中通り、そして西のエリアは会津となります。

会津といえば会津若松市を中心に西会津、南会津、奥会津などの山岳地帯が続いています。今回訪ねたのは、南会津町の前沢集落（国の重要伝統的建造物群保存地区指定）、下郷町の塔のへつり（国の天然記念物指定）、大内宿（国の重要伝統的建造物群指定）などでしたが、只見町他の奥会津エリアも幾つかの道の駅に寄りながら通ってきましたので、これらのエリアの凡その様子は理解することができたと思います。

さて、今回の会津訪問の一番の目的は、何度も傍を通っていながら、まだ一度も訪ねたことがなかった会津若松市内の鶴ヶ城をじっくり見て回るということでした。ようやく旅車を留められる駐車場を見つけて、その目的は達成されたのですが、実はもう一つ楽しみ目的があって、それは会津名物の一つであるソースカツ丼なるものを食べてみたいということなのです。

糖尿君との長いお付き合いのこともあって、ハイカロリーの食べ物は敬遠せざるを得ない状態がずっと続いており、このような目的を掲げるのは、健康管理上真に遺憾であり、且つ危険なことでもあるのです。しかし、残りがさほど長くもない人生ならば、偶には魔が差す振る舞いがあってもいいんじゃないかと。と、まあそう思った次第です。

会津のソースかつ丼をどうしても食べてみようと思ったのは、実は自分にはカツ丼に対する思い出とあこがれの様なものがあるからなのです。それは、高校時代のクラブ活動（バスケットボール部）定例の新年会で、毎年それを食べるのが楽しみとなっていたからなのです。何しろ勉強などよりも運動を優先させていたその頃の自分には、育ち盛りということもあって、常に空腹を忘れられない身体状況だったのです。因みにその頃の毎日といえば、午前中の4時限の授業の内2時限が終わると10分の休み時間に持参の弁当を食べ終え、お昼には売店でパンを買って大急ぎで食べた後は、体育館に直行して走り回って遊び、午後の授業が終わると部室に入って着替えて、18時半過ぎまで練習するという毎日でした。練習が終わると、帰宅に向かうのですが、通学は水戸駅からJRの単線の列車（水郡線）で、いわゆるSLという奴に乗って約50分間、参考書を開きながら眠りと戦い、家の最寄りの駅で降り、それから山道をひと山越えて30分ほど歩き、家に着くのは21時近くとなります。もはや教科書など開く気にもなれず、夕食を済ませれば後はパタンと寝るだけです。

往時の食糧事情は戦後間もない頃（小学生時代）から比べれば、かなり改善されて来てはいたものの、それでも我が家は麦めしが主体で、そのような家は珍しくもない時代でした。今の様に健康のために麦めしを炊くのではなく、米そのものが足りなかったのです。そのような時代でしたから、カツ丼や天丼などという外食は、滅多にお目にかかれるものではなく、何か特別な時でもない限り口にすることは難しかったのです。

高校の部活の新年会では、先輩も何人か来訪されて、後輩との交流戦の後、城跡の下（わが母校は水戸城址の本丸に在りました）にある食堂に注文したカツ丼を取り寄せ、皆で歓談しながら食べるのが定例となっていました。この時に食べるカツ丼は、確か店の名が「ばか盛り食堂」というところが作ってくれるもので、文字通りボリューム大の「ばか盛り」の一品だったのです。一年に一度の大ご馳走なのでした。今思い出しても、いやあ、あれは美味かったなあ。世の中には、こんなに美味しいものがあるんだというのを実感した、人生最初の時間でした。あれから60年になろうとしている今でも、それを超えるカツ丼はまだ現れてはいないのです。

全国には様々なカツ丼があります。西日本（高松・福岡）に計12年暮らしましたが、こちらのカツ丼はどこで食べても馴染めないものでした。メリハリがない味で、カツのうま味を台無しにしている感じがしました。名古屋の味噌カツ丼はそれなりの味があって好きなのですが、自分の遠いイメージのカツ丼とは違ったタイプなので、比較は無意味です。30年ほど前に関東に戻って以降はカツ丼を食べる機会がないまま糖尿病を宣告され、一挙に縁が遠くなってしまったのです。

それがここに来て会津のソースカツ丼というのを食べてみたいと思ったのは、前述のように、残り少ない人生なのだから、もう一度思い切ってあの昔につながるような奴を食べてみたいと、急に思いついたのです。というのも、会津エリアの旅の情報を集める中の「食」の部では、ソースカツ丼が一番の様に喧伝されているのを見て、昔のカツ丼を思い出したのかも知れませんが、糖尿病と30年近くもつき合っていると、偶には敢えて裏切ってやろうという気持ちが湧くのを止められなくなったのかもしれない。

ということで、幾つかの店を選び食べてみることにしたのですが、旧市内にある店の殆どは、旅車を置く場所が見つからないのです。いろいろ調べた結果、郊外なら大丈夫だろうと、河東町にある十文字屋という店を選びました。老舗というわけではなさそうでしたが、ネットで見ると、ボリュームの大きいのが自慢のメニューがあって、面白そうだなと思ったのです。

11時半ごろに行ってみると、20台くらいは留められる駐車場は満車近くになっていて、危うくセーフでした。十文字屋はカツ丼の専門店ではなく、ラーメンや餃子などもメニューにある、普通の食堂という感じの店でした。カツ丼には4種類のメニューがあって、磐梯カツ丼、ミニカツ丼、ヒレカツ丼、ミニヒレカツ丼とありました。早速、ヒレカツ丼というのをオーダーすることにしました。出来上がるのを待ちながら、周囲の人の様子を見て驚きました。普通の丼ご飯の上に巨大なカツが4枚も載っているのです。とても一度で完食できるものではありません。どうするのかと見ていたら、食べられなかった分はお皿にとっておいて、後でパックに入れて持ち帰りができるようです。自分も完食の自信は全くありません。

間もなくテーブルの上に注文のヒレカツ丼がやってきました。いやあ、圧倒されるボリュームです。子供の履く草鞋の半分くらいはありそうな、ソースをかけられたカツが3枚載っていました。4枚載っているのは、磐梯カツ丼という奴の様です。2枚くらいなら何とか平らげられそうだと、早速チャレンジです。ソースに秘密があるのか、それがカツと微妙にバランスしていて、美味しいものだと思いました。これほどのボリュームのトンカツなるものを口に入れたのは何年ぶりなのでしょう。糖尿君との付き合いが始まって25年近くが経ちますから、それを超えているのは間違いありません。

1枚を食べ終えた時、残りを持ちかえりにしようかと迷いましたが、もう少しいけそうなので、さらにチャレンジすることにしました。しかし、全部はとても無理で、1枚は夕食に回すことにしました。家内もふうふういいながらどうにか2枚を収めたようでした。もう、完全に満腹です。そのあと、その日の目的地のある新潟方面へ向かったのですが、途中でどうしても眠くなり、運転に危険を覚えて、西会津の道の駅で1時間ほど熟睡しました。

高校時代のあのカツ丼の味とはやはり違ったものでしたが、それ



会津若松市郊外にある十文字屋のソースカツ丼。戦後の飢えの時代が終わりかけた頃の贅沢を懐かしく思い出しながら味わった。

なりにカツ丼の美味さの新しい発見だったように思いました。そのあと佐渡で半月ほど過ごして、帰りに再び会津を通ったのですが、どうやらあのボリュームと味に毒されてしまったようで、再び十文字屋を訪れ、今度は4枚もカツが載っている磐梯カツ丼にチャレンジしたのです。これも2枚止まりで、それ以上一度に食べるのは無理で、夜の部に回したわけですが、何だか今までずっとコントロールされていた枠が消え去った気分で、久しぶりの開放感に浸りました。

さて、それから3週間が過ぎて、糖尿病の定期検診に行ったのですが、前回6.4だったH_{1c}の数値がなんと7.3%にもなっていたのです。2か月の間にこれほど高くなることは珍しく、医師も首を傾げられています。自分自身も多少は高くなっているのではと思ってはいたのですが、まさかこれほどになるとは、まさに想定外でした。さすがに糖尿君というのは正直で厳しいなと思いました。魔が差すなどという甘えは断じて許さないようです。残りの人生がさほど長くはないとしても、それをわざわざ縮めることはないわけですから、再び糖尿君の言い分を守ることになりました。ま、たった二回のソースカツ丼喰らいの暴走が、このような結果を招来したわけではなく、その他にも佐渡ではみ出し暴飲や暴食が災いしているのは間違いありません。これからは早急に元のレベルに戻し、さらに改善できるように努める覚悟です。

ということで、今回はとんだバカな話となりましたが、高校時代のあの頃を思い出させてくれた会津のソースカツ丼に感謝する気持で一杯です。そして、今度また会津を訪ねる機会があったら、敢えて糖尿君に逆らって、ソースカツ丼にチャレンジしたいと思っています。

(2015年佐渡一国を味わう旅から)

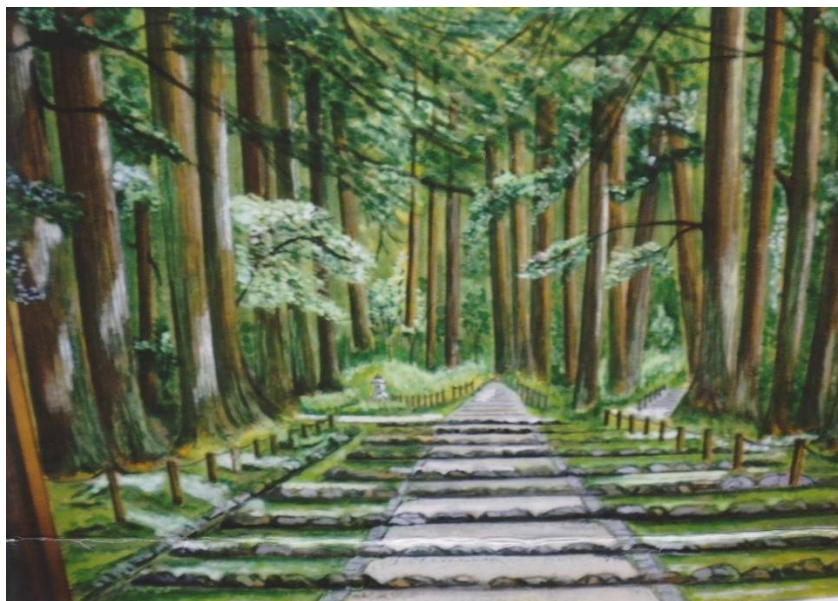
◆ 会員の趣味のコーナー

先回より第14回和光会総会の展示作品をご紹介しますが、今回も引き続き3名の方の作品をご紹介します。

今回もこれらを始めた時期(年数)・動機、作品を制作しての喜び(感動)、苦労したこと、「他に取り組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

◆ 日本画 …… (2016-06) —布施 昌義さんから投稿頂きました— 「白山平泉寺参道・福井県勝山市」(日本画F10号)



会社勤務の時北陸支社に4年程勤務しました。福井県にも何度も出かけましたが仕事でのことが多く、観光で出かけたことはほとんどありませんでした。白山平泉寺も実際には行っていませんが、先般(JRの大人の休日クラブ)の宣伝ポスターに吉永小百合が出ており白山平泉寺がバックになっていました。

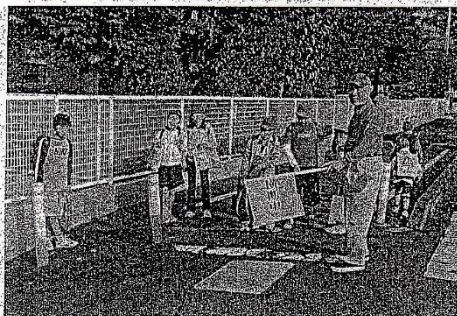
ポスターは吉永小百合がメインですので、背景の平泉寺参道は暗くなっていたので、絵にするのは難しいと思いましたが、日の光を当てて明るい参道にしてみました。

本来は福井まで出かけてスケッチしたいのですが、難しい状況の為、写真から描きました。

今後、機会があったら福井方面に旅行して、白山平泉寺に行ってみたいと思っています。

① 「いじめ」は子供の世界だけではない

東日新聞 2014年(平成26年) 9月3日(水) ④



寄稿

「私たちは今、青少年健全育成を目指し、心ある人たちと行動を共にしている。まずは朝、登校時の「お早うございます」の挨拶から。交差点ではバイクや車などに気を付けて、きちんと手を挙げて渡ろうという見守り隊を結成しては、10年以上が過ぎ去った。」

小学生だった子

図 だ。 応じたら良いのだから、
うか。
ボランティア活動
も10年を越えていられ
と周囲の方々からで
信頼が得られるのだ
あつた。と、お母さん
と相談を持ち掛けれ
れることがある。我
か家の子供がじめに
に遭うと、お母さん
なにかと相談が
お母さんからあつ
た。現実的なクウか
ウを持たない一介の
交通指導員にはいか
んともしがたい相談
だ。

と。そして警察の強制捜査力に頼るしか、今のところ効果的な方策はないとの見解である。

恐いところまでいっても、学校関係者はあまり深入りをしたがらないだろうとのことであった。じかからは教育委員会や校長は何のための組織か、聞いていくほどに深い疑問が湧いてきたが、残念ながらこれが実情でもあるのらしい。

もちろん教育委員会や先生方の中にも

「お母さんたちに
もいじめがある？」
さて、インターネット
上での情報であるが、
過日子育ちの中のある
方々が、お母さんの中
で、お母さんに遭った
ことが報じられていた。
恐ろしく子供だけで
はなく、親の世界にも
あるのは、この世界に
も程度の差こそあれ、
いじめはあるのではな
いかかと思ふ。」
として、大学でも
いじめがある。
○○省庁や△△機
構でも引退時期期

学はあまり希望しないと言っているのである。

話題の理化学研究所や産総研、さらには農業・工業・港湾・鉄道・航空・港、食品分野などこの幅広く、この真面目に長年の研究や体験を通じて積み重ねた専門的知識やノウハウは貴重で、導いての地道な努力が戦後の日本を支えたのではないかと思っている。華やかさはほとんどない。

がなへ「入り込む」・出やすい大学、さらにはほとんど勉強しないまま卒業させるマスプロ大学」の評価が定着し、クロハバル・ランギングはかたがたであったが、決して上がることがないと断言できよう。

☐閉鎖性がまかり通る大学

大学の国際化が進み始めたとは言え、英語で授業をしている大学は極めて少数派。出来る先生がなないこととあわ

の授業の決断が求められる先生方なのも知れない。

この点では體ヶ関をはじめ〇〇機構などの出身者には大きな制約ではない。国際会議にしよう、ちやうと出席しよう、そこで席の発表もあれば、当然のようにディベーターが行われる。また研究のための海外赴任などは珍しいケースでもなく、外国語を研究発表の手段として活用することによって

も知れない。異論があればぜひともお伺いしたいものだと感じている。

③免許更新システムについてながら義務教育関係に携わる先生方には、教員免許更新のシステムがより強く運用されるようになることも聞かされた。当たり前の動きだろう。教壇に立つ者は、社会の動きにより敏感になるのがひいては子供たちのためにもよいと思う。

「いじめ」は子供の世界だけではない

朝話しかけてくれる若者に、しっかりと育つてほしいとの願いを託したいとなっている。

いじめ問題に真正
真面目に取り組もう
と努力している人も
面に取り組んでいる

を迎えている職員
たちは、論文などを

桂木

俊介

本が持つ独特の「閉鎖性」なのかも知れない。

とに定期的に投稿する
るなど、より一層強い
義務付けも必要で
はないかと思う。本

知人に相談を持ち掛けたところ、思わぬアドバイスが頂けた。まずは、①警察署に住所氏名など、明確にして相談すること(現実的に被害が出ていないので警察は聞き置く程度かも)の校長(または教頭)に平直に申し入れる③教育委員会でもその旨を相談する。

何か事が起これば、転校決意で警察に被害届を出すことになる。

多数いるのではないかと思うのだが、相談内容をお母さんに伝えることしかできなかった。幼い子供たちが最後の手段として、自らをあやめるというような方法で何とか助けてと懸命に訴える姿に、このような形では答えられない大人の社会には全く心が痛む。国を挙げて教育問題には取り組むべきだと願って止まない。

発表し次の職場を
探し始めるのが通
例だ。その研究論文
などを見て企業・大
学・研究機関など
有能な人材を求め
ては、顧問・特任教
授などの名前で再
雇用の道が開ける
わけだが、過日もそ
の関係者から思わ
ぬ話を聞いた。

以上の成果でもあ
る。しかし狭い世界に
生きる先方からうす
る。二目分ちたうす
るが、一枚も一枚も上
だ。認識する人が多
いのだから。それは
ど國保者に博士号
は重みがあるのかも
知れない。

ノール賞や國際
的な賞に輝く先方
ならぬ。この知ず
の、まなみ、熊がいつ
までも続、限りの日本
の大学は愛む。と

ていないからでもある。もちろんグローバル化イコール英語だけでは足りないのだが

だが、学生対策はそれほど難しい課題はない。入学後希望者を募り、半年くらいかけて徹底的に英語授業への取り組みを重ねるとか、または高校の授業内容などを見直せば可能となるだろう。むしろ大きな部分は、外国語で

の大学関係者とのミ
リディングの際に、
話題にのぼったが、
人口が大幅に減少
していくまさにこ
の時に、学生数
を増員したり学部
を新設したりする
大学があるようだ。
一体全体どこから
若者を集めてくる
のだろ？誰が考
えても、社会性の乏
しい発想としか思
えないのだが。閑
はまかり通るのか

研究成果の発表を拒むことが、外国語での授業が出来ないブローフェツキには早期に引退願うのも案外、外物界の手段かもしれない。

世の中はうそとごまきとに差が掛かっているのだ。大々開闢者の心ある改革を切望して止まない。(エッセイスト)

桂木 俊介

(エッセイスト)

寄稿

「わたしは時間
の許す限り、香港・
ペトナム・マレーシ
ア、あるいはインド
ネシアなどに出張し
てゐる。何となく、
ぜわしい日本を離れ
て、現地のゆつた
流れの時間になつ
て、せたと願つてゐ
るかも知れない。」

友人たちは降電や
憂鬱なところ行動を制
約されることでは
氣楽に生活できない
とも言つたが、昼間の
明るい時間内に用を
足せば、良いし、灯(あ
かり)の要る夜は寝
ただけで充分なのだ
から。

だが、今その周辺
で静かな変化が起き
つつある。

◎海外で語学研修
を重ねる学生たち

最近学生のみなは
「若者が、海外勤務

を家庭に都合がないと断るのを企業から聞かされたことが、本当にそれだったのかと疑問に感じることもある。今年の春上り、半ばはクアラルンプールに滞在していたのだが、結構な人数の大学生が、英語研修に来ていた。

正確な数字は持ち合わせていないが、2～3年ほど前から特にシンガポール、クアラルンプールなどは増加傾向にあるところではないかと思う。

現地にいた彼らのうち、わが国をめぐると、大学が提携している学校など（米国・英国・豪州）が多いようだが、日本企業学生などは適当に集めて、そこへアフリカ系の若者などを数名組み合わせた「国際生級」と位置付けてはいる。語学研修をしている

もののほけいなど、日本語での会話などはつてまい、真の勉強ができない(痛罵)していた。残念ながら、日本が通官にあつてはなれていく感が出ていた。

また欧米諸国では費用が高額となり、そのギャップでは半額以下で研修を受けられるようになり、何はともあれ自分たちでコースを選択できるから競争の原理が働くのであるから、費用が調整出来るのか。

一方、日本の大学では毎年のことながらマンネリ化してしまつたであろうか、大学によってはどのような提携先の不具合を是正しようとするまいと、これが事実なら全く嘆かわしいことだ。日本の大学評価が年々低下

してこのが理解できぬ。

不潔な長い髪からだぞとわが、日本全体に元気がなくななり、何卒死ぬまで生きて行くのか分らないまま、ただ何なく毎日を無念に過ごしているように思えてならない。さりとて今までの生活ハ

静か

自

ルを落とすわけにもいかず、昔の豊かさだけが身にしみていて、ぶら下がっている感じがするのだが……。

しかし日本の豊かさも今では後退してしまつた。一人当たりの国民所得も断トツのシンガポールに大きく水をあけられ、

に進む
浄作用が
とさえ断言でき
る。それはそれと
して、問題は今からで
ある。

○外国との大学交
流がより進み始め
た

現在幾つかの大学
からの要請などもあ
り、日本の大学がマ
レーシアの私立大学
などとフローメーシ

ンとアジアは番目と
言うが、実は正確に
調査をするとき香港・
マレーネイ以下でア
ジアでは4番目の国
になり下がったのだ
データが示さる。

途中国が懸命に努
力しているからであ
る。日本はますます
貧しい国になってい
くという見方がある。

・就職活動などにも
はなと大きな負担だ
とはならず、むしろ学
生個人の将来には有
利に働くとの声も聞
いている。

そして今、マレー
シア・ペトナムの国
立大学などからの引
き合いも話題になり
始めた。

安倍首相が推し進

化

日本

桂木俊介

がら厳然として立ち
はだかる。数百人こ
らの学生を海外留
学に送り出すのはお
る程度の準備で進め
られるが、外国人学
生や有能なアロフェ
ッサーと呼び込むの
は日本へ呼び込むの
極めて難しい。

もとより日本語の
の講座しかない大学

從來ともすれば「一
象牙の塔」に立て
こもっていた大学
も少しづつだが変わ
り始めたようだ。

○大学教授職員に奮
起を促したい

大きな壁が残念な

の大半を占め、現代の大企業や、現職の大企業シニアの大幅な変更が余儀なくされるからだ。しかしこれらは早晩解決してはかねばならぬ課題でもある。でなければ、誰も日本の大学に興味を示さなくなってしまうのだ。このあたりで、企業家であり、早くから社内会議を英語で行っていたスティーブ・デューラーと、英語が少々なぐ。英語が得意な人、社員が昇進して遠くへ出てと割り切れまい。

時代の最先端を往く大学には、なにもない課題ではないのだから、教職員たちが自らの語学力の向上を図る努力を手れば、良いのだが、それが、いいのだが、いい。……。これは、もう、単に、力。……。

関係者の一握の総力を動かす……。

○日本の学校教育

るが嬉しいですよ。
二へきて、小学校低学年（二）から家族で（お母さんと子供の単身赴任）シンガポール、マレーシアなどに移り住む日本人が増えているそうだ。幼少期から異文化体験や英語教育に慣らしたいという親お母さんの切なる思いがあるのですね、どうしていい？

今年春以降にウェイスフアンなどを介介して、当方にも紹介が来るようになっていた。夏休みの前には数件の相談を待て掛けられていた。つまり現地を多少なりとも知る書として生活面でのアドバイスを早々体的にお願いしたいのと。要請。

その一時から海外を体験して、国際的に通用する人材にしなさいとの強い願いは、良いのだが、日本

[illegible][illegible]

静かに進む国際化

自浄作用が働かない日本

桂木俊介

の大半を占め、現代の大企業や、現職の大企業シニアの大幅な変更が余儀なくされるからだ。しかしこれらは早晩解決してはかねばならぬ課題でもある。でなければ、誰も日本の大学に興味を示さなくなってしまうのだ。このあたりで、企業家であり、早くから社内会議を英語で行っていたスティーブ・デューラーと、英語が少々なぐ。英語が得意な人、社員が昇進して遠くへ出てと割り切れまい。

時代の最先端を往く大学には、なにもない課題ではないのだから、教職員たちが自らの語学力の向上を図る努力を手れば、良いのだが、それが、いいのだが、いい。……。これは、もう、単に、力。……。

関係者の一握の総力を動かす……。

○日本の学校教育

るが嬉しいですよ。
二へきて、小学校低学年（二）から家族で（お母さんと子供の単身赴任）シンガポール、マレーシアなどに移り住む日本人が増えているそうだ。幼少期から異文化体験や英語教育に慣らしたいという親お母さんの切なる思いがあるのですね、どうしていい？

今年春以降にウェイスフアンなどを介介して、当方にも紹介が来るようになっていた。夏休みの前には数件の相談を待て掛けられていた。つまり現地を多少なりとも知る書として生活面でのアドバイスを早々体的にお願いしたいのと。要請。

その一時から海外を体験して、国際的に通用する人材にしなさいとの強い願いは、良いのだが、日本

[illegible][illegible]

◆ 折り紙 (2016-06) —鈴木 誠さんから投稿頂きました—
「たかが折り紙 されど折り紙」



折り紙は「オリガミ」「ORIGAMI」の名で海外でも通じる言葉となっている。紙で鶴やかぶとを作るだけでなく、平面の材料から立体が組み上がる「形」の変化に着目し、プラスチックや金属などの素材を駆使し、折り目に沿ってひとりでに組み上がるロボットなどを試作、実用化を目指し研究開発が進められている。紙ヒコーキ、平和を願っての千羽鶴、花や動物を模しての制作他、趣味の世界にとどまらず専門分野として、「学校教育」「医学」「宇宙工学」「安全工学」「商品開発」等、多方面に活かされて研究開発が進み、実用化がはかられ『折り紙工学』の学名で展開されています。

【近況】

私は会社勤めをしていないので（フリーター）現在の折り紙界の動静をホンの少し眺めながら、妻の「折り紙活動」を応援して、毎日を送っています広隆寺の弥勒菩薩は人気もありよく知られていますので皆さんのコメント気になりますね。

◆ 事務局より

- 和光会会報No.34より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅について投稿いただいておりますが、今回は「2015年佐渡一国を味わう旅から」を投稿いただきました。
ソースかつ丼は長野県駒ケ根市も有名で、会津「十文字屋」の写真を見て10年ほど前に私が食べたことを思い出しました。会津と同じように大盛りで全部食べ切れず2枚残し持ち帰った記憶があります。その後駒ケ根で数軒食べ比べましたが、店によってソースが異なっており、駒ヶ岳登山口にある喫茶「ガロ」が自分では1番美味しいと思います。その他は駒ヶ根ICの近くにある「明治亭」もお薦めです。駒ヶ根に行くチャンスがありましたら是非ご賞味ください。

なお、山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記ブログに載っておりますので是非ご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855>

「山本馬骨」で検索しても可能です。

- ・ 会員趣味のコーナー」では第14回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました布施昌義さんの日本画、久しぶりに磯田昇さんのエッセー（新聞記事）、鈴木誠さんの折り紙の3人の方の作品をご紹介します。
- ・ 和光会の連絡・問い合わせ窓口について
第6期より会社（人事部）が和光会を全面的に支援して下さることになり、OB会事務作業（会員との連絡・通知、1194・カレンダーの送付等）を人事部の委託によりMTBにお手伝いいただき、MTBの担当は総務・人事支援部（部長：志摩 正樹）で変わりありませんが、会報No.42でご連絡しましたように昨年第13期より連絡・問い合わせ窓口は下記のとおり変更になっております。

担当：木村 律子BD、佐々木 敏行、野原 菜穂

電話：03-3803-8865（代表）

FAX：03-3803-8875

E-mail：meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp

住所変更等通常の連絡・問い合わせはMTBの上記和光会担当か、和光会事務局（寺門）で済むと思いますが、会社の人事部の窓口は年金・基金を担当している方で次の通りです。

担当：大峰 勝則 SK

電話：03-5810-5392（ダイヤルイン）

FAX：03-5810-5501

E-mail：oheki.katsunori@meltec.co.jp

- ・ 2016年度会費納入対象の方は2004年、2007年、2010年、2013年および2014年に入会された方々と、会報No.46でご連絡し、対象者宛に「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしました。会費「4,000円（2年分）」の振り込みが未だの方は次の口座宛振り込み賜りたくよろしくお願い申し上げます。

なお、振込用紙を紛失された方は事務局あてご連絡くだされば再度送付いたします。

振込先：郵便局

口座番号：00100-7

口座記号：650896

加入者名：和光会

- ・ E-MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、最近不達が増えておりますので、**メールアドレスの変更時は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ 「和光会会報」・「1194」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくる場合がありますので、**転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ パソコンのある方は、会報や総会写真を下記和光会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

<http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Kaigan/5992/>

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願いいたします。

2017-1-15 和光会事務局 寺門 三男

029-872-4122 mitsuotera@jcom.home.ne.jp